

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490100136	事業の開始年月日	平成23年4月1日
		指定年月日	平成23年4月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ横浜岸谷		
所在地	(〒 230 - 0078) 神奈川県横浜市鶴見区岸谷1-10-27		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成28年12月24日	評価結果 市町村受理日	平成29年3月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、京浜急行生麦駅より徒歩5分程度とアクセスに恵まれており、会社帰りのご家族が気軽に立ち寄ることが出来る環境となっています。
ボランティアさんによる音楽会を毎月開催している他、花見や夏祭り等季節を感じていただけるようなイベントも行っています。2015年より始めたアニマルセラピーは大変好評頂いたため、今後も継続することとなりました。また、職人を招いた寿司パーティー・蕎麦打ち体験は、ご家族にも参加して頂き家族団欒を楽しんで頂いております。
自治会館で行われているお茶会にも毎月参加させて頂き、地元の方々と触れ合う機会を作っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成29年1月28日	評価機関 評価決定日	平成29年3月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇利用者の特性を生かした個別支援 ・利用者の好きなことやできること、したいことなどをケアプランに取り入れて日々のケアに生かしている。字を書くのが好きな利用者には、家族の要望を入れ新聞や雑誌などから題材を見つけて書写しを支援している。おもてなしの好きな方には来客へのお茶出しを依頼し、また、ガーデニング好きな利用者は、職員と花屋で好きな花を買い、事業所の庭に植え手入れをしている。 入居前から購読していた新聞を毎日読むことを日課にしている利用者もいる。 ◇安全と清潔に配慮した環境整備への取り組み ・法人のバックアップを得、事業所内の安全と清潔への環境整備に取り組んでいる。安全を第一に所内の通路等にはなるべく物を置かないようにし、清潔な状態を維持するため掃除機による清掃を1日1回から2回に増やしている。 また、居室の表札も利用者ごとにサイズを変えて違う花の絵で表している。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇日常生活内での歩行訓練の実施 ・車いすの利用者を含め、機能維持やADL（日常生活動作）の低下防止のため、椅子への移乗や杖歩行の練習を続けたり、トイレから居室に戻るときにフロア内を1周して歩く距離を長くするなど工夫している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ミモザ横浜岸谷
ユニット名	サルビア壺番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社としての理念を基本に、事業所独自の理念を作り、サービスに反映している。管理者と職員は常に話し合い、スタッフ会議や連絡ノートを通して、意識の共有を行っている。	・開所時に作成した事業所独自の理念をケアプランに反映し、理念の実践に努めている。 ・管理者をはじめ職員は、常に利用者のできることや得意なことを念頭に、個別ケアにあたっている。	・開所時に比べ、利用者のADLが低下し介護度は上がるなど、状況が変化しています。現状に即した理念の検討が望まれます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、自治会館でのお茶会【ジャンプ岸谷】に参加している。夏祭りの神輿や正月の獅子舞にも来て頂き、地域行事を楽しんでいる。また、地元中学生の職場体験の場として3日間受け入れを行っている。	・自治会主催のお茶のみサロン「ジャンプ岸谷」に参加して、地域の方との交流を楽しんでいる。 ・近隣の中学校から毎年職業体験の中学生を受け入れている。 ・アニマルセラピーや楽器演奏、傾聴のボランティアが訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々が気軽に立ち寄っていただけるホームを目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催している。防災や地域の催し等についての情報共有や当施設の状況等の報告を行っている。	・運営推進会議は2か月ごとに、利用者家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員が出席して開催している。 ・事業所の状況報告後、地域の情報などで意見交換して、運営に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区主催の研修やグループホーム連絡会等、できるだけ参加するようにしている。 H28年度より介護相談員派遣事業に登録し、月1回介護相談員の方が来訪している。	・区の担当課とは、利用者の受け入れや生活保護者について相談するなど、協力関係を築いている。 ・今年から介護相談員の訪問があり、利用者との歓談後には管理者との意見交換の時間を設けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を行い、身体拘束をしないケアについて管理者・職員同士話し合い、理解を深めている。身体拘束排除マニュアルもあり、職員が意識できる環境作りに取り組んでいる。	・身体拘束をしないケアについて内部研修で学び、拘束につながらないケアを実践している。 ・職員の手がふさがっているときや他の利用者のケアにあたっているときの「ちょっと待って」も拘束にあたるとして注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修計画に盛り込み、理解を深めている。管理者・職員同士話し合い、虐待防止について啓蒙と指導を行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されているご利用者が増えており、職員に対し資料を配布し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回、面接時に充分お話をさせて頂き、理解・納得して頂いた上で契約に進んでいる。契約締結時にも、しっかりと説明を行い、ご理解いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催。面会時には職員より積極的に話しかけ、意見・要望を伺っている。	・家族会を年2回開催している。出席していない家族には、毎月の「ここに通信」で内容を伝えている。 ・家族からの意見や提案は、面会時や電話連絡時に聞いている。 ・家族から、ハンドクリーム塗布の要望があり実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や日々の申し送りの中で、意見交換を行っている。	・管理者は、毎月の会議の他日常の会話の中で個別に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 ・職員から座位が困難になった2階利用者の入浴を、1階のリフト浴に変更の提案があり実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	マイスター制度や社内研修を設け、向上心の発展に努めている。また、個々に役割を与え、責任感とやりがいを感じてもらおうよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社内に総合研修所があり、それぞれの立場に合った研修を行っている。研修の情報は共有し、参加を勧めている。参加希望の申し出があった場合にはシフト調整を行い、機会の確保を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度も、グループホーム連絡会の交換研修に、2名の職員が参加。また逆に研修受入を行った。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込みの時点で、ご本人とご家族に直接会い、困っている事・不安や疑問に思っている事を伺っている。また何がしたいか、これからどうしたいかなども聞くようにしている。傾聴と受容を心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の問い合わせがあった際には、まず見学をしていただくように勧められている。見学時に直接お会いしてお話を伺うことにより、信頼関係を構築するよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込みの時点で、本人・家族の現状や要望を伺い、現時点でどのようなサービスが必要なのかを見極め、場合によっては他サービスを勧めるなど、情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯物たたみなどを一緒に行っている。ご利用者の中で役割分担が出来上がり、自ら申し出て下さっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の食事会やイベントを設け、一緒に楽しんでいただける機会を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、親族と交流がもてるよう気軽にホームに来れる雰囲気づくりに努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・知人や友人の来訪時には居室に通し、湯茶でもてなしている。 ・家族の来訪時に、なじみの和菓子屋へ菓子を買に行くことを楽しみにしている利用者、また、以前から購読をしていた新聞や雑誌を楽しんでいる利用者もあり、継続すよう支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握して、関係の変化にも常に気を払い、フロアの席やレクの時間など利用者同士が笑顔で過ごせるよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご利用者やそのご家族が、いつでも相談に来ていただけるようお話している。入院されている場合には、面会に伺ったりしている。また、次の施設のアドバイスを行う事もあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本位の理念のもと以前と変わらない生活を目指して介護を行っています。また、入居時の面談で家族から聞いたり、毎日の生活の中でコミュニケーションを取りながら本人の思いを把握するよう努めています。	・利用者の仕草やふと漏らした言葉を「ありのままケース記録」に記録し、ケアプランに反映している。 ・言葉や思いの表出が困難な利用者には、家族からの情報や表情などから推察して汲み取ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人・ご家族から生活歴等を伺い、馴染みの暮らしに近づけるよう環境を整えている。入居後も常にご本人との会話から情報を収集し、疑問点はご家族に訊く等、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の『気付き』を大事にし、情報共有を密に行うことで小さな変化を見逃さず、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者・職員同士で常に話し合い、ご本人・ご家族とも話し合いの機会を設け、できる事・残存機能を生かした介護計画を作成している。	・介護計画は入居時に暫定プランを作り、約1か月で本プランに移行している。通常は3か月ごとにモニタリングを行い見直している。 ・利用者のできる事、したいこと、家族の希望を取り入れて介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録は、出来るだけ詳細に個別記録へ記載。最善のケアを行えるよう、常に職員間で情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に合わせて、柔軟な支援・サービスの提供を行っている。 終末期と判断されたご利用者に特別訪問看護指示書を主治医に出してもらい看取りをしました。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会・地域包括支援センター・地域住民・職員が参加する運営推進会議を開催し、地域ボランティアなどと協働して支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医による診察が月2回あり、ご利用者の健康状態等を把握している。予定された訪問診療以外にも、特変時には往診して頂いている。フランクに話す事が出来、良好な関係を築けている。	・入居前のかかりつけ医に、家族の対応での受診を支援している。 ・協力医(内科)の看護師同行での往診があり、看護師は24時間オンコールで対応してくれる。 ・皮膚科医の往診や、訪問歯科の治療、訪問マッサージを受ける利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、医療連携看護師がご利用者の健康状態等チェックしてくれている。その際に、気になることを相談したり、電話での相談等にも応じてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を密にし、退院に向け情報交換、相談に努め支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	11/11看取りを行った。重度化した場合や終末期のあり方については、前年よりご家族・本人と話し合い、逝去1ヶ月前には連携医療機関を含めた話し合いを行い、ご家族・本人の望む形で見送ることが出来た。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時家族に「重度化における対応指針」を説明して、要望や意見を聞き話し合っている。 ・重度化や終末期、看取り移行時の各段階で、医師を交えて話し合い、家族の意向を再確認している。 ・開所来2名の看取り実績がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後増加が見込まれる重度化や急変時の対応に備え、職員を対象とした研修会を実施し、看取り対応知識の更なるレベルアップが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを用意している。応急処置や初期対応については、社内研修を行い、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防署に協力して頂き、年2回防災訓練を行っている。この時、消火器・AEDの使い方の指導も受けている。非常時には、近隣に住む職員の応援体制を連絡網にもりこんでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定を含め、消防署員立ち合いで年2回の避難訓練を実施し、同時に消火器とAEDの使用法の指導を受けている。 ・自治会とは「消防応援に関する覚書書」を交わしている。 ・水、米、缶詰などの備蓄とカセットコンロなどを備えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に備蓄品を見直し補充するとともに、簡易トイレ、保温シートなどの備蓄が望まれます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	契約時に、「安心と尊厳のある生活の支援」と、「秘密保持」を約束している。 職員は、利用者個々の人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応に努めている。	・職員は、研修やマニュアルを通して、人格の尊重やプライバシーの確保について学ぶほか、管理者から日常的に指導を受けている。 ・利用者の呼びかけは、苗字にさん付けが基本だが、一人一人の個性や希望により柔軟に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らし方については、基本的には本人のペースに任せている。着衣についても、本人に選択してもらう等、自己決定の機会を増やしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・お茶・おやつの時間は決まっているが、その他の時間をどのように過ごすかは、本人に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は、本人に任せている。 理美容師には毎月来て頂き、希望の方には散髪、染髪、ひげ剃り等を行っている。今年度は、担当理美容師を変更したことで、より個性を表現しやすくなっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	寿司職人や蕎麦打ち職人を呼び、家族も参加出来る食事会を開催している。日々の食事については、準備・後片付けを手伝ってもらっている。	・日々の食事は、業者から届くレシピと食材を職員が調理して提供している。 ・月1回をケーキの日としているほか、出前を取ったり職人を呼んで寿司や蕎麦を楽しむ機会を設けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、栄養士が作成した献立表を元に調理している。個人個人の食べられる量・好き嫌いを把握し、体調等も考慮しながら調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、見守り・介助にて実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記し、個々の排泄パターンを把握している。食事等のタイミングで声掛けを行い、失敗することの無いようトイレでの排泄を促している。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表で排泄パターンを把握し、利用者の様子や時間を見計らって声掛け誘導して、トイレでの排泄を支援している。 ・夜間は睡眠を優先にしているが、可能な限りトイレで排泄するように時間で誘導支援している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり、体を動かすよう声掛けを行っている。食材提供者にも協力頂いて、冷凍野菜ではなく新鮮な野菜を取り入れるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な曜日・時間は決めているが、ご本人の希望に合わせて、時間をずらしたり、翌日に回したりしている。入浴中に関しては、完全にご本人のペースに任せている。ゆず湯やしょうぶ湯など、季節を感じていただけるよう配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は原則として週2回とし、入浴を拒む利用者には、日時や職員を変えて対応している。 ・季節に応じて柚子湯や菖蒲湯などを楽しんでいる。 ・入浴を利用者とゆっくり話せる機会と捉え、会話を楽しみながら支援している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し、必要に応じて空調の調節やトイレへの声掛けを行っています。また、季節によっては濡れタオルを配置し室温湿度調整に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬については、インターネットで調べたり薬剤師に尋ねたりして、知識を得ている。薬が変わった時は状態変化に注意し、すぐに専門家に相談できるよう体制を整えている。嚥下状態等に合わせ、OD錠や粉碎の検討も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽好きな方が多いので、音楽会を毎月開催している。他にも、アニマルセラピーやフラダンス等、ボランティアさんに協力いただき、様々な方が楽しめるイベントを開催している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は外気浴・散歩を楽しんで頂いている。花見・紅葉狩り等、季節を感じていただけるような外出も行っている。	・天気の良い日は、公園や商店街まで散歩し、事業所の駐車場に出した椅子に座って外気浴をしている。 ・家族の協力により、外食や買い物に出掛けたり、旅行などの外泊をする利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、ご家族・後見人が管理しているが、預かり金を使って近所のスーパーやコンビニへ出掛け、おやつ等を買うことはある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人・知人からの電話の取り次ぎ、手紙のやり取りは行っている。毎年ご家族や友人・知人への年賀状を送れるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔な空間を保てるよう努めている。トイレをわからなくなる方が多いので、案内板を貼っている。掲示物や飾り付けは毎月交換し、季節を感じていただけるよう工夫している。	・リビングにはソファやテレビを利用者が寛げるように配置し、壁には絵画や写真、季節の作品などを飾っている。 ・毎日清掃と換気を行い、エアコンと加湿器で温湿度を調整し、心地よく過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人同士の席の配置にしているため、お話をしたい時は席で会話を楽しみ、一人になりたい時はテレビ前のソファ席でゆったり過ごせよう、配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物を持ってきていただくよう、ご家族にお願いしている。居室での過ごし方や本人の希望を聞き、必要なものがあればご家族に持って来ていただき、居心地良く過ごせるよう工夫している。	・居室には、エアコン、カーテン、ベッド、クローゼットが設置されている。利用者は、テレビや楽器などを持ち込むとともに、写真や自作の能面や習字などを飾って個性的な部屋にしている。毎週自室のテレビで競馬中継を楽しむ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で、車椅子の方でも生活しやすい作りとなっている。手すりや床材・各居室の物の配置は、危険が無いよう日々確認している。各居室には介護用ベッドを設置し、起き上がり・立ち上がりしやすいよう配慮している。		

事業所名	ミモザ横浜岸谷
ユニット名	サルビア式番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	連絡ノートや職員同士の意見交換の場を持ち事業所のサービスに反映できる様、会社の理念を軸に、独自の理念を作って実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の各種催し（お茶会・お祭り等）に参加し、近隣の学校から職業体験の受け入れを行い地域とのつながりを持っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記のように地域の催しに参加し、運営推進会議等を通して地域の理解を得ており、地域住民の方々が気軽に立ち寄っていただけるホームを目指しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催されており、防災や地域の催しなどについての情報共有や施設の状況等を報告し、相互理解の場として機能している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区主催の研修やグループホーム連絡会等、できるだけ参加するようにしている。平成28年度より介護相談員派遣事業に参加し、月1回相談員に来訪してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年定期的に身体拘束をしないケアについて社内研修を行っています。今年も研修を実施しています。身体拘束排除マニュアルを事業所内に配置しています。職員が意識できる環境作りに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修計画に盛り込んでいます。また研修も行いました。虐待防止について啓蒙と指導を行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されているご利用者が増えており、職員に対し資料を配布し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回、面接時にお話させていただいているが、利用契約時に丁寧に説明させていただき、ご理解いただいた上で契約をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催し、家族と職員が会話できる機会を設けております。また、頻りに面会に訪れるご家族も多く話しをする機会が多い。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションを良く取り風通しの良い、意見が伝わる職場づくりを心掛けています。また、月に一度スタッフ会議を行い、意見交換の機会を持っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修の講師や年間行事の担当などの役割を担ってもらうようにしています。あすなる制度やマイスター制度などミモザ独自の制度がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を職員に伝え、参加を勧めたりしている。また本社内に総合研修所があり、個々に合った内容の研修に参加するように促し、スキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会の交換研修に参加し、職員に研修に行ってもらった。また、他事業所より研修を受け入れています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みがあった際は、ご本人とご家族に直接お会いして、困っている事、不安や疑問に思っている事を聞くようにして、双方の安心と信頼の為に受容と傾聴を心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の問い合わせがあった際には、まず見学をしていただくように勧められている。またアポイントを取り、直接お会いして不安や要望を伺うことにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、困っている事・どうしていききたいかなどご本人・ご家族の要望を聞いた上で入居することが適切か、他の介護サービスが適切か見極め、情報提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のケアの中で本人のできることは何か、やりたいことは何かを見極め、さりげなく支援しながら生活を送ってもらっています		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の食事会やイベントを設け、一緒に楽しんで頂ける機会を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、親族と交流がもてるよう気軽にホームに来れる雰囲気づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握して、関係の変化にも常に気を払い、フロアの席やレクの時間など利用者同士が笑顔で過ごせるよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご利用者やそのご家族が、いつでも相談に来ていただけるようお話している。入院されている場合には、面会に伺ったりしている。また、次の施設のアドバイスを行う事もあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本位の理念のもと以前と変わらない生活を目指して介護を行っています。また、入居時の面談で家族から聞いたり、毎日の生活の中でコミュニケーションを取りながら本人の思いを把握するよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、どのように暮らしてきたのかを聞き、これまでの生活についての情報を得ながら、個人の生活の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	面会時、家族と話し合い、介護記録やご本人との会話を参考に利用者一人一人意に沿ったケアプランになるよう努めている。また、アセスメントなどを行い把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議などを行い対応しています。必要に応じて家族とも連絡を取っています。また、面会時、家族や職員と話し合い、本人のできる事・残存機能を活かした介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入し、職員間で共有して、今後のケアや介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に合わせて、柔軟な支援・サービスの提供ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会・地域包括センター・地域住民・職員が参加する運営推進会議を開催し、地域ボランティアなどとも協力して支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医による診察が月に2回有り、状況に応じて臨時往診なども行い、ご利用者の健康状態を把握しています。また、掛かり付け医との協力関係も構築しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師が月4回ほど、ご利用者の健康状態をチェックしてくれています。その際に、気になる事を相談したり、電話での相談にも応じてくれます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を密にし、退院に向けて情報交換、相談に努めて支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについてはご本人及びご家族の意向に沿った形で、ホームでできることを随時相談しながら看護師や主治医と連携をとることになっています。		
34		○急変や事故発生時の備え	緊急時対処マニュアルがあり、応急処置や初期対応などについても定期的に研修を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っています。水消火器を使った訓練も実施しています。非常時、近隣に住む職員の応援体制も連絡網に盛り込んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	契約時に「安心と尊厳のある生活の支援」と「プライバシーの保護」を約束しています。また、職員はご利用者の自尊心を大切にしながら声掛けをするように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日、リハビリ体操や口腔体操を行っているが、自由参加でご利用者のペースを尊重した支援をしています。入浴の際、衣服の準備等ができる利用者には、準備して頂き自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶、間食の時間帯は決まっていますが、他の時間についてはご利用者の希望やペースを優先して過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援しています。1ヶ月に1回ペースで訪問の理容師に来ていただく機会を設けています。本人の希望でカラーなどオプションを実施することも可能です。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の生活でももやしの根とり、盛り付け、お茶入れなど一人一人の能力に応じてできることをしていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは大枠の所は食材納入業者に委任しており、嚥下状況や体調に応じて調理時に都度対応している。一人一人の摂取量は記録に残し、情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを実施しています。週1回、歯科往診があり、歯科衛生士による口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表より管理しています。訴えない利用者については時間で誘導したり、失禁が減るように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分をしっかりと摂り、体を動かすように声掛け支援している。不調時は主食をおかゆに変えたり、医師と相談して対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には3日に1回のペースで入浴を行っています。また、季節によってはゆず湯や菖蒲湯など、季節に応じた行事を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し、必要に応じて空調の調節やトイレへの声掛けを行っています。また、季節によっては濡れタオルを配置し室温湿度調整に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬については共有把握しています。また、状況によっては錠剤を粉末に変更したり、トロミ・ゼリーを加えたりして対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法等、定期的に行っています。昨年はアニマルセラピーやそば打ちなどのイベントが催されています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴や散歩に出かけたりしており、定期的に花見やドライブ、外食などを実施しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、ご家族・後見人が管理しているが、預かり金を使って近所のスーパーやコンビニへ出掛け、おやつ等を買うことはある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意思とご家族の状況に応じて行っています。また、年末にご家族に宛てた年賀状を書いている方もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が、気持ちよく過ごして頂けるように明るく清潔な空間作りに努めております。また、フロアには季節感が感じていただけるような飾りをレクの一環として作成することもあります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観たり、新聞を読んだり、気の合う利用者同士がおしゃべりしたり自由にできるよう席を配置するなどしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具も持ち込み、壁には自分で作ったカレンダーや家族の写真を貼っている方もおり、自由な空間づくりができています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、全バリアフリーでトイレの表示など利用者の目線に合わせ、できるだけ本人の行動が自由にできるようわかりやすく工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ横浜岸谷

作成日 平成29年3月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	備蓄品の充実	備蓄品を保管するスペースが限られており、保管場所を確保していく	現在、倉庫内の一部に保管しているが、倉庫内の物品を見直し保管場所の確保と合わせて非常用トイレなど充実をはかる。	6ヶ月
2	12	研修の充実（看取り）	年1回必ず実施していく	年間研修計画に盛り込み継続して実施する。スタッフ会議と同日に行っていたが別日程で実施する、医療職の講師に依頼するなど検討していく。	6ヶ月
3	1	事業所理念の見直し	共有しやすい理念を検討していく	どのような介護をしていきたいか、介護されたいかなど職員から意見を募集し共有しやすい理念を作る。	6ヶ月
4					
5					